

11 月「あとリエー丁」作品集



井上清彦 「サルビアの花と柿」

井上さんの作品：

力みのない素直な気持ちで描いた作品ですね。どこにも無理がなくて、観る人に安心と優しさを感じさせます。柿の実も硝子の花瓶も花も、色彩が豊かで優しいです。

あえて、花瓶と柿が置かれている机を描かなかったのでしょうか、やはり机の端の線（横の線）を入れてみてはいかがでしょう？ それも味わいのある横線が欲しい。

背景の控えめのブルーとバイオレットの色彩の調子もよいです。

岡田さんの作品：

岡田さん独特のにじみが美しいですね。

輪郭を描かない岡田さんの作品には、観る者にいろいろと想像させる面白さがあります。この絵は宇宙を彷彿とさせる空間に「柿の枝・葉・実」が溶け込んで作品を面白くしました。

描きこみ方が不足しているなので、この朦朧の感じを保ちながら、もう少し追及して絵を強くしてほしいと思います。



岡田理子 「秋の彩り」

黒田さんの作品

1:

黒田さんは緻密な観察力で対象の細部を観察し、描写する力は誰にも真似できない優れた才能をお持ちです。

この作品も描写的にすごいと思います。ここまで描写できるのですから、次のステップは作品に強弱(遠近・濃淡・他)をつけて、絵を面白くする技術だと思います。それを冒険しながら、徐々に習得したら最高です。



黒田重雄「静物 II」



黒田重雄「静物 III」

黒田さんの作品2:

「柿、夏ミカン、木彫りの熊、三角形の木の置物」の組み合わせが、モチーフィックに仕上がっていません。

むしろ、この作品は「木彫りの熊さんと木製の置物」だけを、ドンと大きく描き、柿・ミカンは脇役として、遠くに小さく描いた方がよかったと思います。

描く前に「絵の主体」を定めるという作業が大切です。



月川りき江(ちぎり絵)「秋の訪れ」

月川さんの作品:

机の上に置かれた静物と左上方から突き出した柿の木、の組み合わせが面白い構図を作りました。葉書サイズの「ちぎり絵」という、小さな画面をととても大きく感じさせる効果が出ました。陶器の花瓶の硬い表面、柿の実と枯れた葉っぱの表現、ミカンの表現も素晴らしいです。

若林さんの作品:

夏野菜の組み合わせを超写実的に描きましたね。

トマトも美味しそうです、キュウリは曲げると「ポキッと」折れてキュウリの匂いがしそう、ナスも実在感がいっぱいです。

若林さんの描写力は最高です。野菜を置いた机と布、背景の空間の距離感を色彩・濃淡でもっと出してください。



若林哲史「秋の稔り」



竹前義博「柿と夏ミカン」

竹前さんの作品 1: 竹前さんは最近、沢山の作品を描いています。その効果がこの作品からにじみ出てきます。すらすらと何の苦しみもなく(?)描いてゆく竹前さんの才能は日々の努力のたまものです。この作品もよくできているのですが、「葉」の表現が課題だと思います。



竹前義博「紅葉に埋もれる民家」

竹前さんの作品 2:
常緑樹の 5 本の黒々とした大杉と紅葉した秋の森や山の対比がすごいです。小さな役割ですが左の方の 7 本の小さな濃い緑の杉の存在がとても大切です。作品の下部(家が建つ大地)をもう少ししっかり描いてください。構図的には左下がりが気になります。



遠矢慶子「実りの秋(1)」

遠矢さんの作品1： パステル独特の色彩とタッチで気持ちよく描いた作品です。一番素晴らしい事は「柿」が主体、奥の方に控え目に描かれた「ミカン」が脇役、という構図の役割意識が明確なことです。



遠矢慶子「Autumn leaves」

遠矢さんの作品2： 桜の葉でしょうか、柿の葉でしょうか、紅葉した 4 枚の落ち葉だけを描いて、「日本の秋」は素晴らしいよ、という大きなメッセージを伝えてきます。絵画的には 4 枚の葉の領域(三角形の影の部分)があって効果がでました。構図、色彩、描写、面白さ、とても見事です。



筒井隆一「秋の花」

筒井さんの作品：

筒井さん独特の真面目で硬い作品です。これが筒井さんの個性です。この個性をどんどん伸ばし、磨いてゆくと将来が楽しみです。

画面の右上に広く開いた空間を背景の変化(バイオレットの陰影)で補った技術は大したものです。

課題は白い机に置かれた ①ガラスの花瓶の透明感を出す、②柿と花瓶の「影」をもっと効果的に描く、の2点です。

武智さんの作品：

写真をもとに自宅で描いた作品。机の上に置かれた、柿の枝・実・葉、の表現が見事です。特に柿の実には艶があり、硬さがあり、美味しそうです。

奇抜なことを一切せず、対象物を忠実に観察して表現を心がけた気持ちの良い作品になりました。湯のみを添えてタイトルの「昼下がり」の雰囲気を出しました。課題は背景の表現です。簡単に描きすぎています。



武智康子「秋の昼下がり」



喜田祐三「秋空に柿」

喜田の作品1:

妻にトマトのような柿、光ったところは種ですか？と酷評されました。秋の空はよく見ると、黒く見えてきます。そこに真っ赤に熟れた次郎柿の実を重ねて描いたつもりです。

喜田の作品 2:

隣の吉田さんが枝葉付きの夏ミカンをくれました。二つみかんを並べて描きました。構図上必要な水平線を机の沿面と影を利用して調子を整えて描きました。色鉛筆と水彩を使いました。



喜田祐三「夏ミカンの季節」